

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	こども発達支援むぎいるkariya		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 14日 ～ R7年 2月 14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	8
○従業者評価実施期間	R7年 1月 14日 ～ R7年 2月 14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児の特性をよく理解し、個別支援がしっかりと行われている。	保護者と密に情報共有し、連携するため日々の登降園時にはコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気作りを意識している。	連絡ノートでの伝達に漏れがないようにダブルチェックをして対応。
2	活動内容の豊かさ。	マンネリ化しないよう、同じ遊びでも違うやり方で色々な楽しみが味わえるようにしている。	他事業所で行われている保育も参考に取り入れ、様々な視点から活動を考えていく。
3	児のより良い支援のため、常に検討、実施を心がけている。	職員間で共通認識、理解できるように適宜、情報共有、話し合う時間を作っている。	事業所内だけでなく、連携関係にある訪問看護やリハビリ職員等、密にコミュニケーションを図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こども同士の交流が不足している。	地域や他のこどもとの交流する機会が限られている。	地域の保育園との交流を図っていく。
2	保護者同士の交流する機会がない。	送迎を利用する児が多いので保護者同士、会う機会が少ない。	保育参加等の保護者が児の様子を直接見る機会や保護者同士の交流のきっかけを作っていく。
3	マニュアル周知が不足している。	契約時にお伝えしているがその後の詳しいお知らせがない。（変更時など）	児に合った緊急時の手引きを作成し、お渡しできるようにする。